中野区立第二中学校学校だより
若葉 第233号
令和3年11月15日
令和３年度第７号
発行者：校長　松田　芳明

小栗上野介の先見性、洞察力と当事者意識

ＮＨＫの大河ドラマ「青天を衝け」では、渋沢栄一を主人公として幕末から明治にかけての日本の様子を垣間見ることができます。その中では、登場の機会は少なかったのですが、俳優の武田真治さんが演じていたのが、幕府の小栗上野介です。小栗上野介といえば、徳川埋蔵金にかかる特別番組では常連ですが、皆さんは知っているでしょうか？　江戸城無血開城という偉業を成し遂げた勝海舟のことは、かなりの人に知られていますが、小栗上野介が偉大な功績を残していますが、知る人はそう多くはないと思います。

1860年(万延元年)日米修好通商条約の批准のため、小栗も遣米使節団として渡米することとなりました。このとき小栗はアメリカ各地を訪ね、その進んだ文明を目の当たりにすることとなります。ビルが立ち並び、気球が空を飛び、蒸気機関車が走っているといった当時の日本では考えられない先進技術に圧倒されたのです。小栗は、ワシントンの造船所を訪れたとき、巨大な蒸気船を建造するための技術力の高さに驚愕します。蒸気の力で動く製鉄機械や旋盤といったテクノロジーが整備され、そこからは次々と船体の基礎となる鉄骨や鉄板などの部品やネジが生み出されていくのです。このとき小栗は「わが国にも、このような施設を作りたい」とアメリカの新聞記者に語ったといわれています。

日本で初めて株式会社を立ち上げたのも小栗でした。渡米の時、大西洋側に向かう途中でパナマ鉄道に乗車した際、アメリカ側に対して、パナマ鉄道の建設費をどのように工面したのかと質問をしていたようで、そのお金は政府からではなく、国内の裕福な商人から集めたもので、運営費以上に利益が出たら商人たちに還元されるという説明を理解し、日本でもこのカンパニーの仕組みを取り入れればインフラ整備ができる。そう考え、最初に提案したのは、兵庫港の開港にあたって大阪商人２０名ほどに出資をさせて、兵庫商社という貿易会社を立ち上げるというものでした。

話を戻して、アメリカから帰国した小栗が幕僚たちに横須賀造船所の必要性について必死に訴え続けていた折、ある幕臣がこんなことを口にしたとい言います。

「幕府の運命もなかなか難しい。これから大金をかけて造船所を造っても、でき上がる頃には幕府がどうなっているか分からないではないか」　それに対して、小栗は、「幕府の運命に限りがあるとも、日本の運命には限りがない。自分は幕臣だから幕府の為に尽くす身分だけれども、それは結局日本の為であって幕府のしたことが長く日本の為となって、徳川のした仕事が成功したのだと後に言われれば、徳川家の名誉ではないか。国の利益ではないか」と述べたそうです。

小栗上野介には先見性や洞察力の高さを感じる以上に、この言葉から、強烈な当事者意識を感じ取ることができます。小栗上野介は、次のような言葉も残しています。
「一言で国を滅ぼす言葉は『どうにかなろう』の一言なり。江戸幕府が滅亡したるは、この一言なり」この言葉にも、小栗上野介の当事者意識の高さが端的に表れているように思います。

<10月12日（火）第１学年 お台場＆上野・浅草校外学習>

中学生になって、２回目の校外学習。今回は、自分たちで調べて、行き先を決め、責任を持って行動をするという、中学生らしい校外学習でした。

<10月15日（金）第２学年 鎌倉校外学習>

昨年度は、コロナ禍により校外学習等が延期及び中止になってしまった２年生が、ようやく校外学習を行うことができました。責任感にあふれた、とても良い笑顔の１日になりました。

<10月16日（土）中野区立小中学校 特別支援学級連合 運動会>

キリンレモンスポーツセンター／中野区総合体育館で、２年ぶりの開催となりました。Ｉ組の生徒たち一人一人が競技や係の仕事に、しっかりと取り組んでいました。

<10月22日（金）教育委員会訪問>

中野区教育委員会の委員さんや事務局の管理職の皆さんが、二中を訪問され、１時間ほど、生徒との意見交流会を行い、委員さんからの質問についてアンケートをまとめて回答し、生徒からの質問についても回答していただきました。

<栄養士による食育の授業（１年生）>

１年生の保健体育「食事と健康」の単元で、栄養士による食育の授業を行いました。健康のために必要な栄養素についてや朝食の役割について学ぶと共に、給食の残食についても知ってもらい、その量に驚きを隠せない様子でした。

<10月23日（土）道徳授業地区公開講座＆進路説明会>

１・２校時にオンラインによる授業公開及び協議会、３校時には進路説明会を行いました。１年生は授業の中でディベートを行いました。

<10月30日（土）文化発表会（合唱コンクール）>

２年ぶりに開催することができました。ただし、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、これまでとはプログラムを変更し、合唱の部を生徒相互の鑑賞の時間と保護者の方にも参観いただく時間に分けて、さらには保護者の皆様には学年ごとの入れ替えに、ご協力をいただきました。

◆各学年の作文から

「大丈夫B組最強だから」　　３年B組　関口　聖良

その瞬間歴史は動いた。三年B組は運動会と合唱コンクールの二大行事で優勝することができたのだ。

昨年はコロナウィルスの影響で、文化発表会は中止になってしまったため、実行委員としての仕事はできなかった。だから、今年も実行委員になると決めていた。そうしたらなんと、私は実行委員長になることができた。

練習が本格的に始まった。最初は正直何をしたらよいかわからなかったり、思うようにまとめられなかったりと大苦戦したときもあったり、仕事が多すぎると思ったこともあった。だけど、協力的な人が多かったこともあり、頑張ろうという気持ちになった。

B組が歌う「春愁」は、A組やC組と比べてあまり盛り上がらなかったり、聞き映えしないと言われた。どうやったらすごく聞こえるかなどを考えたりアドバイスを男女関係なく行ったりすることで、クオリティの高い合唱へと近づけていった。そうすると、たくさんの先生から、「B組すごく上手だね。」「もっと上手くなれそう。」など、たくさんの褒め言葉をいただきもっと良い合唱を本番歌うと決めて、その後の練習にも取り組んだ。

本番は一瞬だった。気づいたら閉会式だった。吉田先生のピアノ伴奏で「春愁」が流れたとき、私は一人舞台裏にいたが、とても嬉しかった。実行委員長として頑張ったこと、B組のメンバーで金賞を獲れたこと、金賞未経験者の半田先生に金賞を獲らせてあげられたことなど色々な思いがあり、今まで以上に嬉しかった。

文化発表会を全体的にみても、コロナ禍とは思えないくらいみんなで楽しみながら全力で歌えていたので、大成功だったと思う。

この文化発表会で培ったものを、これからの学校生活や高校生活にも生かしていきたい。

「史上最響」　　２年C組　後藤　　慶

指揮者が手を挙げた瞬間に皆の脚が一斉に開く「ドッ」という音が自分は好きでしたが、一方で当日は緊張させる音にもなった。合唱コンは昨年もやろうと練習していたが、練習の途中に中止になってしまった。なので、今年が僕にとっても皆にとっても初めての合唱コンだった。

この２年C組はとても元気があり、ここぞという時に力を発揮できる凄く良いクラスだった。合唱コン練習が始まり、まだその時は緊急事態宣言中で全員一緒に歌うことができず、パートごとに教室を分けて練習したり、ハミングをしたりと合唱コン頑張るぞと言う気持ちにはなりきれていなかった。そのため、宣言が終わって声を出せるようになってもふざけてしまう人がいたり、まだ100%の声を出せずにいる人もいて、吉田先生に皆の本気度を知りたいと言われて１枚の紙にそれぞれの想いを書いた。気持ちよく歌いたいや一生懸命やりたい、楽しくやりたいなど、それぞれ言いたいことを言った。その想いが実ったのか分からないが、次の練習からどんどんクラスのレベルが上がっていった。

合唱コンの練習は朝と放課後にもあった。実行委員の関原君と韮澤さんがもっとどこを良くしたらよいかなどのアドバイスをもらいながら練習した。そして初めての聴かせ合いを縦割りでやった。３年生は迫力が凄く、とても気持ちがこもっていてさすがだなと思った。２年C組も凄く上手だとほめられた。

そして迎えた本番、C組は一番最初で緊張した。ピアノの前奏が流れ始めて、第一声は思ったようには出なかったが皆が思っていたよりも声を出していて、僕も緊張しつつも歌いきることができた。終わって、見ていた保護者の方からの拍手を聞いて、やっとほっとした。

結果発表の時、C組も獲れると思っていたがB組が獲るかも知れないと思っていた。しかし、２年生の金賞はC組と呼ばれて、皆で喜んだ。僕も嬉しかった。同時に実行委員の二人と指揮者の二人、伴奏者、歌ってくれた皆に感謝したいと思った。C組はとても明るく元気で、やるときはやるということが今回でも立証できたと思う。皆が素晴らしく堂々としていて心強かった。

「合唱コンクールのふり返り」　　１年C組　西沢　琉愛

中学校で初めての合唱コンクールで、練習を始めたばかりの時は全体的に声が小さかったり、実行委員の声を全然聞こうとしてくれなくて、金賞を獲るのは難しい状況でした。

ですが、段々みんなが声を聞いてくれるようになりました。実行委員が「静かにして」と言って静かにならなかったら、クラスの一人が「静かにしようよ」と注意をしてくれて、みんなが協力して暮れるようになりました。最初は出なかった声も、練習を重ねていくと出てくるようになってクラスがまとまってきているなと嬉しくなりました。

文化実行委員はクラス二人ずついます。私たちC組は私と竹鼻くんが実行委員をすることになりました。ですが、竹鼻くんが怪我で実行委員の集まりに来られなくなってしまって、私一人だと大変でしたが、梶野先生やA・B組の実行委員の人が手伝ってくれて凄い助かったし、嬉しかったです。

金賞は獲れなかったですが、実行委員は裏でこんな仕事をしているんだと知れたり、楽しかったし、人前に立って何かを話すのが苦手な私ですが、文化実行委員をとおして、少しはなれたんじゃないかと思います。文化実行委員に入って凄い良かったです。また、クラスのみんなの頑張っている姿が見られて良かったです。運動会では人によって出る種目が違ったので、全員が同じものに必死に取り組んでいて、嬉しくなったり、それと同時にこのクラス全員ではもう歌えない寂しさもありました。ですが、凄く楽しかったし、みんなで頑張れて、最後に写真も撮って良い思い出になりました。

◆合唱コンクールの結果一覧

クラスの賞	指揮者賞	伴奏者賞
１年A組　金　賞 Ｉ　　組　優秀賞 ２年C組　金　賞 ３年B組　金　賞	１年B組　田中　　杏さん ２年A組　友野　慈苑さん ３年A組　玉山　遥菜さん	１年C組　八尋　俊司くん ２年A組　坂口　結香さん ３年C組　北川　愛莉さん

◆黒板アート

文化発表会（合唱コンクール）の開催にあたり、恒例の黒板アートが作成されました。

<ボランティア再開>

宮の台児童館「DonDon きてくだ祭」

11 月 6 日（土）、２年ぶりの児童館のお祭りの開催にあたり、ボランティアスタッフとして、３年生３名と１年生３名が、参加してくれました。小学生の実行委員を中心にお祭りを作り上げていきます。ゲームコーナーやお化け屋敷、ダンスステージなど盛り沢山の企画でした。

第 39 回初期消火機器操作法大会〔主催：中野区長会連合会〕

11 月 7 日（日）、３年生６名と２年生２名のによるバケツリレーチームを編成し、大会に参加してきました。学区域の弥一向台町会、千代田町会、宮里町会、鍋横町会、新中野町会も参加されていました。

<部　活　動>

第二中学校水泳部９名が、標準記録を突破して、第 69 回東京都中学校学年別水泳競技大会（10/2・3）に出場しました。東京都辰巳国際水泳場で全員が自己ベストの記録を更新しました。

<入選・入賞>

◆社会を明るくする運動作文コンテスト　…　１年A組　津田　梁太くん
　※３名の作文は都の審査に行きます　…　１年A組　小嶋　莉穂さん
　…　１年C組　古屋　志樹くん
◆人権作文【中野区人権擁護委員賞】　…　２年C組　後藤　　慶くん
◆税の作文【中野納税貯蓄組合連合会会長賞】…　３年C組　稲子　容子さん
◆税の作文【中野納税貯蓄組合連合会優秀賞】…　３年C組　谷川　青衣さん